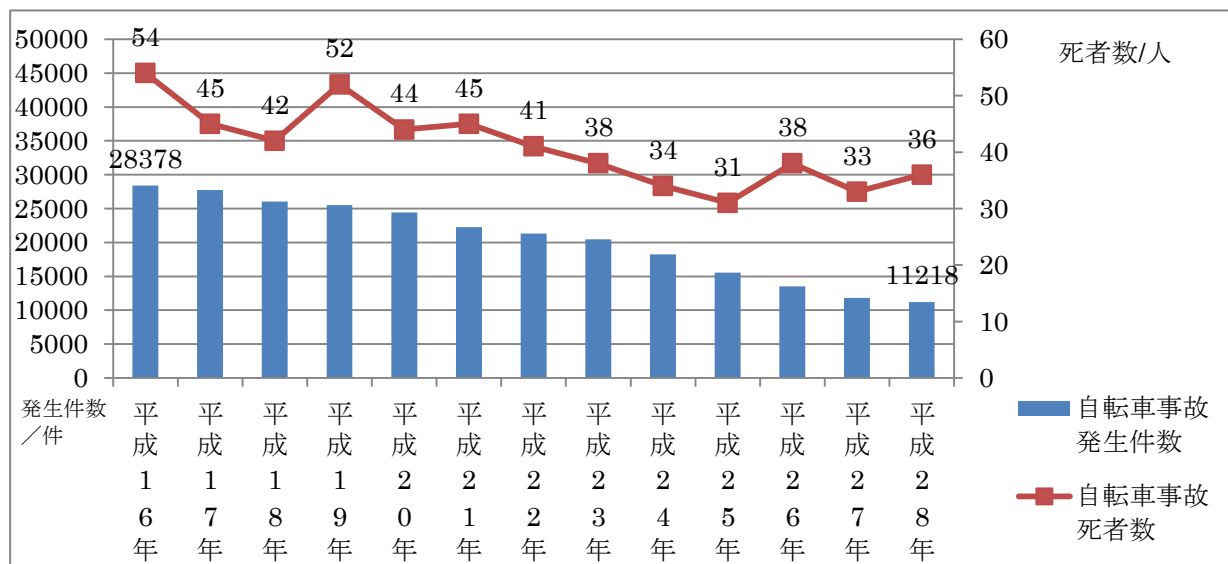


本年の自転車事故発生状況と東京都の対策について

1 自転車事故の年次推移

自転車の関連する交通事故発生件数は、平成16年以降、12年連続で減少しています。しかし、自転車事故死者数は、微減微増を繰り返しています。



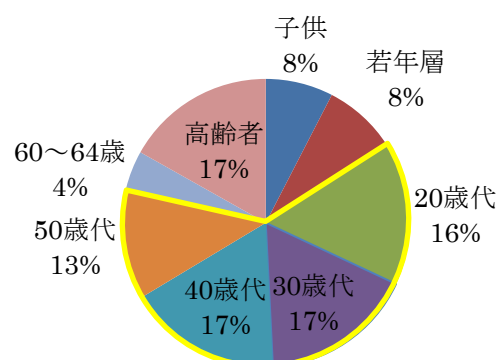
※出典～「東京の交通事故」自転車事故の年次推移より

2 本年の自転車事故発生状況

本年7月末の交通事故発生件数は、18,651件(昨年比+376件)と増加しており、前記交通事故の内、6,737件(昨年比+383件)は、自転車事故で、自転車事故の増加が、全交通事故発生件数増加の要因となっています。

そして、自転車事故の年齢層別構成率を見ると、20代～50代が63%を占めており、自転車事故を減少させるためには、自転車事故当事者の大部分を占めている、成人層への働きかけが不可欠です。

本年の自転車事故年齢層別構成率



※子供：幼児・小学生・中学生、若年層：高校生・中卒から19歳、高齢者：65歳以上をそれぞれ示す。

※出典：警視庁「交通事故概況(平成29年7月末現在)」年齢層別、当事者別事故件数・死傷者数より

3 東京都の自転車事故抑止に向けた取組

東京都は、本年の自転車事故発生状況を踏まえ、事故の増加を抑制するために以下の対策を実施します。

(1) 区市町村への情報提供と連携

区市町村に対し、定期的に交通事故発生状況の提供を行うほか、高齢者等の関連する交通死亡事故が発生した際は、注意喚起チラシ等を提供し、連携した広報を実施します。

(2) 都内事業者を通じた成人層に対する自転車安全利用普及啓発

自転車安全利用条例に基づく「自転車安全利用推進者」を中心とした、事業者内研修を定着させるため行っている「自転車安全利用 TOKYO セミナー」において、本年の自転車事故発生状況を広報し、自転車安全利用促進の必要性を訴えかけ、事業者内研修の活性化を図ります。

(3) 多数の来場者が見込まれるイベントにおける自転車交通安全教室の開催

過去の集客状況等から多数の来場者が見込まれるイベントにおいて、自転車交通安全教室を開催し、成人層を中心に幅広い年齢層に対し、自転車安全利用を意識付けます。

また、ヘルメットの普及啓発を実施し、特に高齢者のヘルメット着用を促進します。

(4) 自転車シミュレータ交通安全教室の集中開催

全国秋の交通安全運動や TOKYO 交通安全キャンペーン等の交通安全行事の実施に合わせて、自転車シミュレータの派遣を重点的に行い、成人層を中心に自転車安全利用の普及啓発を行います。また、高齢者に対しては、シルバー人材センターと連携して、自転車の安全利用、ルール・マナーの定着とヘルメットの着用促進を図ります。

(5) 自転車用ヘルメットの着用促進広報

頭部損傷による自転車事故の重篤化を防ぐため、ポスター、動画等活用したヘルメットの着用促進広報を重点的に実施し、自転車用ヘルメット着用を促進させます。

4 秋の全国交通安全運動期間中の自転車事故抑止強化対策

(1) 自転車交通安全教室

日 時	会 場
9月24日（日曜日） 午後1時～午後5時	東京都ヘルメット普及啓発イベント 東京都議会都民ホール（新宿区西新宿）

(2) 自転車シミュレータ交通安全教室

日 時	会 場
9月17日（日曜日） 午後0時30分～午後3時	麹町交通安全キャンペーン 飯田橋グラン・ブルーム(千代田区富士見)
9月24日（日曜日） 午前10時～午後0時	三鷹交通安全キャンペーン 三鷹中央防災公園(三鷹市新川)
9月24日（日曜日） 午前10時～午後1時	汐留イタリア街シーサイド・ライダーズカップ2017 汐留西公園(港区東新橋)

(3) 事業者内の自転車安全利用リーダーの育成

日 時	会 場
9月25日（月曜日） 午後2時～午後4時30分	自転車安全利用TOKYOセミナー 新宿NSビル30階（新宿区西新宿）



自転車安全利用TOKYOセミナー



自転車シミュレータ交通安全教室